

地 域 連 携
— 2012年度 —

1. 農学部公開シンポジウム

平成20年度より内閣官房と連携して開講している「地域活性化システム論－農学と地域活性化－」の第1回を兼ねて、10月13日（土）に第11回農学部公開シンポジウムを開催した。

農村地域の活性化に、農学がいかにかわるべきかについて、農業者が自発的に取り組んでいる「農業の六次産業化」という視点から、農村地域のバイオマスを産業化に利用する先進的な取り組みと地域活性化に焦点を当てて、現場での取り組み実態を5名の方からご報告いただいた。その後パネルディスカッションを行い、林業者・政策担当者、農学研究者、一般市民も含めてそれぞれの立場から地域社会に密着した議論を深めることができた。

テーマ：「人口減少下の中山間地域活性化方策」

(1) 「地域活性化を図る施策展開」

池田 泰雄（内閣官房地域活性化統合事務局 参事官）

(2) 「技能資源を活用した中山間地域活性化対策の理論的フレームワーク」

駄田井 久（岡山大学大学院環境生命科学研究科 准教授）

(3) 「岡山県における中山間地域活性化対策の取組状況の報告」

梶谷 隆行（岡山県県民生活部 中山間・地域振興課 課長）

(4) 「地域振興の光と影（中山間地域の目指すもの）」

牧 邦憲（真庭市産業観光部商工観光課 主幹）

(5) 「グリーンオーシャン戦略－林業はシゴトになる－」

井筒 耕平（美作市地域おこし協力隊）

コーディネーター 佐藤 豊信（岡山大学教授）

2. 公開講座

育てて食べようおいしい夏野菜－家庭菜園のツボ2012－

フィールド科学センター内の畑約20㎡を1区画として受講生に割り当て、ナス、トマト、ピーマンのほかエダマメ、インゲンマメなどの夏野菜の育て方を指導した。原則として毎週水曜日の午後に講義または大学院・学部学生による畑での栽培指導を行った。平日の日中のみ入構可能として講義日以外にも収穫や除草などの管理作業を行うよう指導した。いずれの参加者も熱心で、暑い中で熱心に作物の栽培管理に取り組み、自己流で行ってきた家庭菜園よりできがよいと好評であった。

受講対象者：家庭菜園に興味のある一般市民 40名

担当教員：吉田

技術職員：山奥・宮地

実施場所：岡山農場 南3号圃場

実施日 4月11日～9月12日（毎週水曜日）

4月11日（14時開講）	野菜栽培の基礎，葉菜類・マメ類の播種・定植
4月18日（14時開講）	果菜類の着果習性，スイートコーン定植
4月25日（14時開講）	肥料の種類と与え方，マメ類の定植
5月2日	トマト・ピーマンの定植
5月9日	ナスの定植
5月16日～8月29日	果菜類の整枝・誘引・栽培管理・収穫
9月5日（14時開講）	秋野菜の作り方
9月12日	あと片付け

3. ジュニア公開講座

これでみんなも岡大ライス博士

「これでみんなも岡大ライス博士」

岡山大学農学部附属山陽圏フィールド科学センターでは、約10ヘクタールの水田で水稲の栽培を行い、収穫されたコメは大学生協の食堂で「岡大ライス」として提供され、また販売所を通じて地域住民の皆さんに親しまれています。毎日食べているご飯が「田んぼ」で作られていることは知っていても、実際のイネの植物としての特性や生産に使われている技術などについては必ずしも広く知られているわけではありません。そこで今回は、田植えから除草、収穫、そして餅つきまで、本物の田んぼで本物の稲（岡大ライス）を栽培し、稲作に関する基礎と最近の生産技術について体験してもらうとともに、実験を通じてイネの植物としての特性や「田んぼ」の生態系の成り立ちを理解してもらえたらと考えています。

開催日（13：30～16：00）

- 第1回 6月16日（土）なぜ田植えをするの？ -田植え実習とバケツイネの栽培-
- 第2回 8月4日（土）雑草と害虫とは？ -除草実習と害虫の観察-
- 第3回 10月13日（土）稲刈りってどうやるの？ -稲刈り実習と穂の観察-
- 第4回 12月8日（土）ご飯とお餅の違い？ -餅つきと稲作儀礼-

参加者：小学生（4年生以上）9名とその保護（引率）者

場 所：岡山大学農学部附属山陽圏フィールド科学センター岡山農場

協 賛：公益財団法人マツダ財団